



「タフ・見守るクルマの保険プラス」で採用しているドライブレコーダーが 「CES 2020」、「オートモーティブワールド」で紹介されました

2020年1月17日

MS & ADインシュアランス グループのあいおいニッセイ同和損害保険株式会社（社長：金杉 恭三）は、「タフ・見守るクルマの保険プラス」で採用しているドライブレコーダーが、世界最大級のエレクトロニクス・ショー「CES 2020^{※1}」で展示されたことをお知らせします。

また、同ドライブレコーダーは1月15日（水）から17日（金）まで、東京ビッグサイトで開催されるクルマの先端技術展「オートモーティブワールド」内の株式会社 JVC ケンウッド（社長執行役員：江口 祥一郎、以下「JVC ケンウッド」）展示ブースでも紹介されています。

※1 Consumer Electronics Show、1月7日（火）から10日（金）まで（現地時間）アメリカ・ラスベガスで開催された世界最大級のエレクトロニクス・ショー

1. JVC ケンウッドブースについて

「CES 2020」「オートモーティブワールド」の JVC ケンウッドブースでは、車載・映像技術を活用した通信型ドライブレコーダーを軸とするテレマティクスソリューションを展示しています。

その最新活用事例として、当社の「タフ・見守るクルマの保険プラス」で採用しているドライブレコーダーと共に、下記のソリューションが紹介されました。

- ①通信機能により位置情報や衝撃検出時の映像を自動的にコールセンターへ送信することで、事故後の迅速かつ的確な初期対応を実現
- ②運転中に前方衝突の危険がある場合や車線逸脱した場合など、事故につながりやすい運転をドライブレコーダーが検知すると、音声で注意喚起を行うことで安全運転をサポート

2. 当社のテレマティクス自動車保険の取り組みについて

当社は、テレマティクス自動車保険を2004年から発売してきた日本国内における同分野のフロントランナーであり、2015年3月には英国テレマティクス保険会社の大手であるBIG社（Box Innovation Group Limited）を買収し、そのノウハウを活用する等、最新のテレマティクス自動車保険・サービスの研究・開発を行ってきました。

これらのノウハウをもとに、2018年4月よりトヨタが展開するコネクティッドカーの一部を対象^{※2}に、毎月の安全運転の度合いを保険料に反映した「タフ・つながるクルマの保険」を、2020年1月には、JVC ケンウッド製の専用ドライブレコーダー型テレマティクス^{※3}端末で取得した走行データに基づき、安全運転の度合いを保険料に反映する、「タフ・見守るクルマの保険プラス」を発売しました。

※2 当社が定める走行データが取得できるナビを搭載かつインターネットへの接続機能を有する車両

※3 「テレコミュニケーション」と「インフォマティクス」を組み合わせた造語で、カーナビやGPS等の車載器と移動体通信システムを利用して、様々な情報やサービスを提供する仕組み

3. 今後について

当社は、通信型ドライブレコーダーを活用したテレマティクス自動車保険の開発・提供を通じて、「安全・安心なクルマ社会の実現」に貢献していきます。

以上

当社は、社会との共通価値を創造し、目指す社会像である「レジリエントでサステナブルな社会」を実現するため、SDGs（持続可能な開発目標）を道しるべとし、地域の皆さまに貢献する活動を行ってまいります。



主に貢献しているSDGs目標

